

## 西宮歴史調査団ニュース 第14号

西宮市立郷土資料館 兵庫県西宮市川添町15番26号 〒662-0944 電話 0798-33-1298

## 名塩八幡神社で見た石碑と盃状穴

粟野 光一 (石造物班)

## はじめに

『名塩史』(373頁)には、名塩八幡神社(西宮市名塩1丁目2-3)の創建について、「史料や記録が残っていないので不明である。寛政6年(1794)の「摂津名所図会」には「祭神、山州男山よりの勧請也、此地の生土神とす」と出ていて、神体は山城の石清水八幡宮(京都府綴吉郡八幡町)より迎えたと書かれて」いる(註1)。

旧街道から馬場先の注連柱を潜った直ぐ左に、名塩厄神と銘が刻まれた石碑(拝殿への階段近くにも1基在る)と、その近くの左右に一对の灯籠が設置されている。この石碑に刻まれた銘と灯籠の台石に穿たれている盃状穴に付いて調べたことを報告する。尚、本稿で取り上げる石造物は花崗岩製で、盃状穴に付いては他の神社の石造物も述べる(図1)。

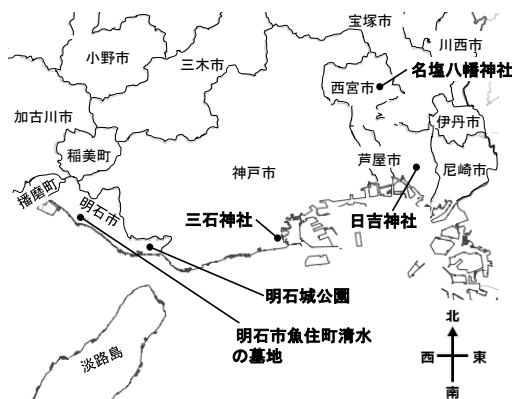


図1 盃状穴の確認地点(国土地理院地図を加工)

## 1. 名塩厄神の石碑について

名塩厄神と銘が刻まれた石碑の右側面には、他の神社では目にすることが無かった「宮守」の銘が刻まれている(写真1)。

宮守と宮司の所以に付いては手元の文献から抜粋して記す。

宮守について、『名塩史』(374頁)によると、「神社の運営は往昔より神主を置かず、氏子の60歳以上の男子より選ばれた、3人の宮守によって執行されてきたが、明治40年、神社祭式行事作法令の施行に伴い、以後、神事は有馬稲荷神社神官児玉氏によって行われている(「有馬稲荷神社児玉家記録」)」とある。



写真1 名塩八幡神社の石碑(厄神碑)

また、『名塩雑事記』（60～61頁）には、「還暦を過ぎた長男夫婦3組または5組で構成し、神社の維持管理にあたってきた。しかし、年々志望者が減ってきたため、昭和50年から名老連名塩分区が持ち回りで担当している」と記されている。

宮司については、『名塩雑事記』（60頁）に、「明治6年、有馬郡湯山町稻荷神社祠掌児玉繁太夫が、名塩村社の祠掌を拝命以来、繁蔵、康治、克佑宮司が継承してこられたが、平成25年から塩田八幡宮古舞陽曉宮司に引き継がれている」とある（註2）。

石碑については、『名塩雑事記』（60頁）に、「馬場先にある碑は、終戦直後当時の宮守上山與治郎、久路安治、中条宗次郎、野条五一郎、畑田利三が奉納したもので、小学校で解体された奉安殿の縁石が用いられている」とある。

## 2. 盃状穴について

三石神社（神戸市兵庫区和田宮通り3丁目2-51）境内には、盃状穴が穿たれた石造物（写真2）と共に盃状穴に付いての説明板が設置されている。

その説明板によると「信仰の対象物、及びその附属の石造物に何事にもくじけない強い意志、何らかの信念で人為的に石に穿いた痕跡（凹穴）を盃状穴という。古い世代（我国では古墳時代を含むそれ以前）のものは、女性のシンボルから由来した生産と再生の表示とみなされており、『再生や不滅の象徴を目的とした』ものと思われている。近世に至っては、強い信仰や願望の意思表示として凹穴を穿いたとされている。当神社盃状穴石造物は、社殿前階段敷石に用いられていたものである」とされる。

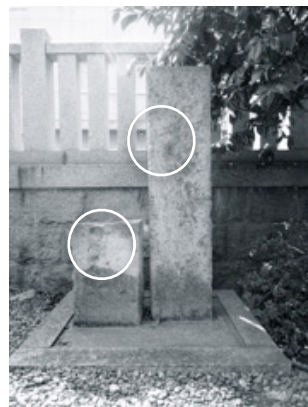


写真2 三石神社の盃状穴

また、機関紙「三石さん」によると、民俗学者の柳田國男（兵庫県福崎町生れ）は「石に靈魂が宿るという考え方は、まだ人間の信仰が系統立った宗教にならぬ前から、多くの民族に共通して行われていた」と著しているという。固い石を穿つという強い篤い信仰心がなければ盃状穴は生まれないと説明する。

このように強い願望や信念に基づき、繰り返し繰り返し願いを唱えながら硬い石を打ち続け、盃のような窪み状を呈しているのが盃状穴である。

## 3. 西宮市内における盃状穴について

今まで私が見て来た西宮市内の盃状穴は名塩八幡神社の灯籠の台石、日吉神社（西宮市津門大箇町8-31）境内社の階段の段鼻、灯籠の台石、敷石のみである。

### （1）名塩八幡神社

注連柱を潜ったすぐ右側の灯籠（註3）の最上段の



写真3 名塩八幡神社の灯籠の盃状穴

台石の二カ所に、人為的に穿たれたと思われる大きさが異なる窪みが在る（写真3）。右側の窪みは直径7.5cm、深さ3cm、左側の窪みの輪郭は直径5.5cm、深さ1cmほどの大きさである。

## （2）日吉神社

「日吉神社由緒」によれば、「天正年代（今より約417年前）瓦林氏の武将野田兵庫頭が此の地に砦を構えし時、里の平和繁栄を祈念する為、近江の国日吉大社より拝祀此の地の守護神とし、本社が創建された」と書かれている。

鳥居を潜って3段ばかりの石段を登った直ぐ左右に一对の灯笼が設置されている。左側の灯笼は文化11年甲戌年（1814）の建立で、その台石の一番下段を囲む4本の石造物の一部にも大小の盃状穴が見られる。大きく深く穿たれた穴も在れば、小さく、そして浅い穴も見られる（写真4）。

また、右側の灯笼近くに敷石が土中に埋められており、その敷石にも盃状穴が見られるが、良く見なければ見逃すくらい浅く、何らかの理由で深く穿つのを止めたのではないかと思われる（写真5）。

さらに、境内社への参道の階段の段鼻には、これぞ盃状穴と言わんばかりの盃状穴と、小さく浅く穿たれた盃状穴を数多く見ることができる。左側の直径は9cm、深さは5cm、右側の直径は7.5cm、深さは2.5cmである（写真6）。

## 4. 近隣地域の盃状穴について

筆者が確認した西宮市外の盃状穴についても記しておきたい。前出の通り盃状穴なるものを気付かせてくれた神戸市兵庫区の三石神社境内の階段敷石、明石市の明石城公園内の庭園石（写真7）、明石市魚住町清水の旧山陽道（旧西国街道）傍の墓地への階段（写真8）の3カ所である。

明石城公園の庭園石は元々この場所に在ったのか、何処から運ばれて来たのかは分からない。また、明石市魚住町清水の旧山陽道傍の墓地への階段は、古くに共同墓地が造られてから此処に埋め込ま



写真4 日吉神社の灯笼の盃状穴

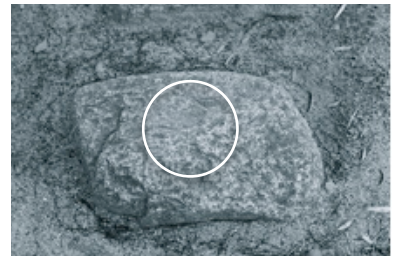


写真5 日吉神社の敷石の盃状穴

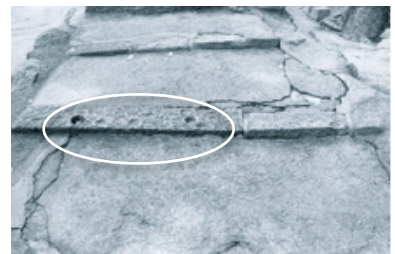


写真6 日吉神社の参道階段の盃状穴

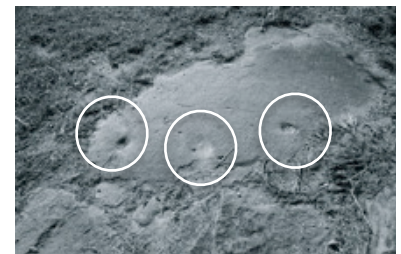


写真7 明石城公園内の盃状穴

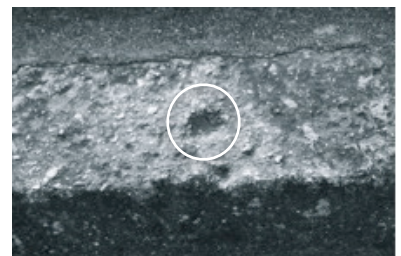


写真8 明石市魚住町清水の墓地に向かう階段にある盃状穴

れているのではないだろうかと推測する。

## 5. 考察

まず、名塩八幡神社の石碑（名塩厄神）をきっかけとして同神社の宮守と宮司について調べた。神事の担い手は、氏子から選ばれた宮守から宮司への変遷が見られたが、神社の管理運営は、他の神社ではあまり見られない宮守によって、今日までなされてきた様子が分かった。

次に、今回の考察対象とした盃状穴は花崗岩製の灯籠等の石造物に見られた。花崗岩は加工が容易とは言え蟻地獄の如き窪みを何のために穿ったのだろうかと思いを馳せれば、そこには何かを願い或いは何かを呪い、長い年月穿ち続ける強い意志が働いていたのだろうと理解できる。盃状穴の発生は古代からのもので、縄文時代まで遡ると言われ、古墳や石棺の蓋、寺院の石造物にも見ることができ、明治時代まで信仰の対象として穿たれてきたようだ。機関紙「三石さん」によると、沖縄地方の墓所の壁には盃状穴と同様の窪みが見られるが、墓所は母胎に帰るという帰元思想があり、再生への表示と考えられる。石棺に多数の盃状穴が見られるのは、死者再生信仰の証である。

## おわりに

盃状穴を穿つ作業は何時されたのだろうか。誰かが奉納或いは寄進した石造物に勝手に穴を穿つのは気が引けるのではないだろうか。いくら昔でも日中であればその作業は人目を憚るので、草木も眠る丑三つ時、つまり漆黒の闇の中で行ったのであろうか。興味が湧く所である。

ここに記録した盃状穴は、誰が、何時、何の願いを込めて穿ったのかを伺い知ることはできないが、打ち続けても砕けない硬い岩石を使って、そして強い意志と篤い信仰心を以って穿ったと言うことは理解できる。

筆者が今後調査する或いは調査をしてきた石造物に果たして盃状穴は存在するのか、存在していたが見落としてきたのか興味の尽きない所である。

## <註>

- (1) 京都府綴喜郡八幡町は現京都府八幡市にあたる。
- (2) 塩田八幡宮は、神戸市北区道場町塩田3238にある神社である。
- (3) 建立年月の銘は長年の風雨の影響を受け風化し、全ては読み取りが不可能だが、寛政□□□年7月吉日と読み取れる。□は判読できない字をさす。

## <参考文献>

- 『名塩史』（財団法人名塩会、1990年）  
『名塩雑事記』（名塩探史会、2013年）  
小林友博 『三石さん』（三石神社社務所、2013年12月）  
「日吉神社由緒」（日吉神社奉賛会、1992年3月吉日）

# 名塩八幡神社の石造物調査にみる名字と生業

牛田 孝次 (石造物班)

## はじめに

私は、平成30年度より石造物班の調査に参加している。名塩八幡神社 (写真1)は、私が調査に参加した2カ所目の神社だった (写真2)。

名塩八幡神社の石造物調査を行う中で、神社と地域のかかわりに関心を持ち、それぞれの石造物を奉納された方が、どのような職業に就いておられたかに着目した。

## 1. 名塩八幡神社について

『西宮新市域風土記』によると、「八幡神社は、塩瀬町名塩字東垣内にあり土地の人は八幡宮、又は通称厄神さんとも云う。応神天皇を祭る。創立年月は不詳であるが文明 (西紀1469年一) 以前の勧請と伝えられるこれ境内に幾百年を経た老樹がウツソウとして聳えるのを見ればうなづかれようし、又文明年号を記した古記録が最近まであつた」 (179頁より 原文ママ) という。

## 2. 名塩八幡神社の石造物

まずは、名塩八幡神社の石造物の中から石造物班で設定した整理番号と名称・人名等を書き出してみた (表1)。人名のないものや読み取れないものは省き、判読できない字は「□」と表記した。

加えて、令和元年 (2019) の調査時には失われていた石造物で、『名塩雑事記』に記載されている人名に関係するものが、二つある。一つ目は「雨垂受」で、奉納者は「施主 青木喜一郎、桶谷幸一、家門馬太郎、川東庄市、前田辰蔵」 (59~60頁)、二つ目は、馬場先にあった「厄神碑」で奉納者は「宮守 上山與治郎、久路安治、中条宗次郎、野条五一郎、畑田利三」 (60頁) である。



写真1 名塩八幡神社 (名塩一丁目2-3)



写真2 調査風景 (名塩八幡神社)

表1 人名が刻まれた石造物一覧

整理番号	名称	人名等	年号等
1	注連柱	畑田平吉 中条藤松 馬場伊十良 野條五良 三郎	大正四年十月建之
5	狛犬	小野源七 今村善太郎 岩本庄右エ門 山本嘉口助	明治廿一年戌子九月建之
6	狛犬	早崎弥三郎 矢野弥三郎 瀬川宇兵衛 北野源兵衛 周施人 覺前藤四郎	
12	狛犬	口井治口左衛門	
17	灯籠	箱谷勤三 全小三エ 全俊夫 全寛 全俊二	昭和五拾壹年四月
21	注連柱	父 馬治良 母 イク □□□□□ 妻 タツエ 長男 治	皇紀二千六百年
23	親柱	願主 大坂 □□左衛門	
45	灯籠	願主 上山伊兵衛	安政六巳未年十二月吉日
47	石柱（百度石）	有井治郎 谷仙助 覚前清五郎	明治十七年秋日
48	石柱（百度石）	岩野定七 天正太平 茶十嘉平	明治十七年秋日
49	灯籠	宮守 木本庄一郎	昭和三十九年
50	灯籠	宮守 田中米三郎	昭和三十九年
52	狛犬	大阪さのや橋 石匠 森松之助	大正九年三月建之
53	狛犬	施主 弓場上亀松	
54	狛犬	願主 中山彦兵衛 星治郎□□	天保十一年
55	狛犬	□兵衛 上口三郎 北佐兵衛	
56	狛犬	神主 車源次郎 畑田利三郎 野条甚吉	
59	灯籠	従一位勲一等 岩倉具視	明治十二年十一月建巳卯

（註）整理番号59の灯籠は、岩倉具視が奉納したもの。『名塩雑事記』や『名塩物語』によると、岩倉は他にも、白鳩3羽・提灯2対・源家紋草附御幕1張を奉納している。

次に、以上に記した人名の名字について、令和2年（2020）のゼンリン住宅地図の名塩地域の中から、旧名塩村の大西町、西之町、南之町、中之町、北之町、山之町、東之町に同じ名字の世帯がどれだけ存在するかを数え、多い世帯から記すと以下のようなになった（表2、3）。

また、名塩八幡神社の石造物にはないが、名塩地域に多い姓として「谷野」と「八木」がある。「谷野」は全域に11戸あり、「八木」は、南之町に5戸ある。この他に気になる名字として、「水内」、「豆腐谷」、「木挽」を挙げたい。「水内」は、水内橋という橋名があり、字名に水内垣内があるためである。「豆腐谷」や「木挽」は、職業に関係する名字なのではないかと考えたためである（註1）。「水内」が西之町と中之町に3戸、「豆腐谷」が東之町と中之町に3戸、「木挽」が東之町に1戸ある。

表2 名塩八幡神社の石造物にみられる名字の戸数と分布

名字	戸数	主な分布
中山	18戸	山之町、北之町、西之町、大西町
馬場	17戸	東之町、中之町、北之町、西之町、大西町
畑田	16戸	東之町、山之町、中之町
野条	16戸	東之町、南之町、中之町、北之町、西之町、大西町
覚前	10戸	東之町、中之町、北之町、西之町、大西町
田中	7戸	山之町、北之町、西之町
中条	6戸	中之町、西之町
北野	6戸	山之町、南之町、中之町
上山	4戸	山之町、南之町、西之町
木本	2戸	中之町、西之町
岩野	2戸	中之町、西之町
箱谷・車	2戸	東之町
山本・弓場	1戸	西之町
岩本・天正	1戸	中之町
小野・谷・今村・早崎・天野・ 瀬川・有井・茶十・森・星・北	0戸	

表3 『名塩雑事記』にみられる名字の戸数と分布

名字	戸数	主な分布
家門	6戸	東之町、山之町、北之町、西之町、大西町
桶谷	5戸	東之町、北之町、西之町
青木	4戸	北之町
前田	4戸	南之町、北之町、西之町
久路	1戸	南之町
川東	0戸	

(註) 名塩八幡神社の石造物にみられる名字と重複するものは省略する。

### 3. 名塩八幡神社の石造物にみられる名字と生業

ここからは、名塩八幡神社の石造物の奉納者の傾向を知る手がかりとして、明治期の名塩地域の人々の職業を調べた成果を述べる。

塩瀬村役場の「明治23年度地方税中営業税及雑種税等級課目課額議按」（西宮市総務課所蔵）から旧名塩村を見てみると、製紙、小売、旅人宿、陸運、仲買、大工、竹細工、古物、飲食店、湯屋、理髪、木挽、染物、綿打、左官、桶工、鑄掛、等の職業に従事する人が確認できる。中でも「製紙」と「小売」が、群をぬいて多い。

今回の石造物調査で確認された名字を同書から探してみると、どのような職業が多かったかが推測できる。現在も5世帯以上ある名字を見ると、「中山」は、旅人宿、小売、製紙、湯屋、「馬場」は、小売、質屋、古物、製紙、「畑田」は、小売、古物、製紙、「野条」は、小売、製紙、飲食店、「覚前」は、小売、製紙、「中条」は、小売、製紙、飲食店、大工、「田中」は該当なし、「北野」は、小売、桶工、理髪、飲食店となっている。

次に、『名塩雑事記』にみられる名字を「明治23年度地方税中営業税及雑種税等級課目課額議按」から確認すると、「家門」は、製紙、「青木」は小売とある。石造物にはないが村に多い名字では、「谷野」は、小売、染物、製紙、「八木」は小売とある。また、「水内」は小売、製紙で、「豆腐谷」は湯屋となっている。

## おわりに

名塩八幡神社の石造物の名字を調べてみると、製紙関係に従事する方の奉納が多いことがわかった。また、小売が多いこともわかり、製紙と関連しているように考える。これに加えて、旅人宿や湯屋の職業に従事する家があったことは、近隣の有馬温泉との関連性がうかがえる。また、『名塩史』によれば、昭和27年（1952）から塩瀬地区で温泉調査が始まり、名塩地域では、温泉の試掘調査（写真2、3）等も行われた。



写真2 名塩温泉試掘予定地（昭和27年頃）  
（画像データ提供：西宮市総務課）



写真3 名塩温泉試掘予定地（昭和27年頃）  
（画像データ提供：西宮市総務課）

## 【付記】

本稿は、令和元年度西宮歴史調査団活動報告会で報告予定だった内容に加筆・修正したものである。

## <註>

（1）『名塩史』（208頁）によれば「柚木挽をする家が数軒あり、現在この地に木挽という姓があるのはそのためである」とある。

## <参考文献>

『西宮新市域風土記 一蓐と和紙・竹籠の町々への招待』（西宮市立図書館創立25周年西宮読書会創設5周年記念刊行、1953年）

『なじおの年中行事』（名塩探史会、1982年）

『名塩史』（財団法人名塩会、1990年）

『名塩雑事記』（名塩探史会、2013年）

『名塩物語』（江本純三、2013年）

---

西宮歴史調査団は、団員に登録した市民が主体となって、西宮市内の文化財を調査し、記録を作成する文化財調査ボランティア活動の団体です。西宮市立郷土資料館が主催しています。

西宮歴史調査団ニュース 第14号 令和3年（2021）12月17日